

リーフレット（小学校中高学年用）を活用した授業展開例

※このリーフレットは、学校での自転車交通安全教育で活用していただくとともに、児童が家庭に持ち帰り、保護者とともにチェックシート等で、保険加入、自転車点検、自転車安全運転等の確認をしていただき、学校と家庭が連携した自転車交通安全教育を継続的に行っていただくことを目的として作成したものです。

授業展開例を参考に、各学校、学年の実態に合わせて、リーフレットを活用していただくようお願いいたします。

- | | |
|-----------|---|
| 1 対 象 学 年 | 3～6 年生 |
| 2 教科・領域 | 学級活動 等 |
| 3 題 材 名 | 「おぼえよう！自転車のルール」～事故にあわない、おこさない～ |
| 4 題材の目標 | ○自転車乗車中の危険について予測し、どうすれば危険を回避できるか考える。
○自転車での事故がどんな状況で発生しているか理解し、交通安全への意識を高める。
○「ちばサイクルルール」について理解する。
○事故にあわない、おこさないためにどうしたらよいか考える。 |

5 學習展開

時配	主な学習活動	指導上の留意点	資料
導入 (7分)	1 自転車の乗り方について、絵を見ながら話し合う。 ・正しい乗り方はどれか。 ・危険な乗り方はどれか。 ・自分の普段の乗り方はどうか。	・正しい乗り方の絵を見つけるだけでなく、危険な乗り方の絵については、どうすれば正しい乗り方になるか考えさせる。 ・自分の自転車の乗り方を振り返らせる。 ※それぞれの正しい乗り方の確認は、時間の後半に確認すればよい。	リーフレット ワークシート例
	①×細い路地からの飛び出し→・停止線で一度止まって左右を確認する。 ②×傘差し運転（ヘルメットなし）→・雨の時は合羽を着用する。（ヘルメット着用） ③×並進走行→一列で走行する。 ④×スマートフォンを使用しながらの運転→・スマートフォンの使用をやめる。 ⑤×車道の右側走行→・車道の左側を走る。 ・自転車通行可の歩道（車道寄り）を走る。（左右どちら側でも可） ⑥○自転車横断帯を走行している。 ⑦×横断歩道で歩行者とぶつかりそうになっている。 →・自転車横断帯がある時には必ず横断帯を通行する。 ・横断歩道しかない場合は、歩行者がいるときには自転車を降り、押して渡る。 ⑧○自転車通行可の歩道を通行している。（歩道の車道寄りを走行） ⑨×二人乗り→・二人乗りはしない。 ⑩×ヘッドホンを使用しながらの運転（ヘルメットなし） →・ヘッドホンの使用をやめる。（ヘルメット着用） ⑪×飲酒運転→・お酒を飲んだら自転車には乗らない。（車両の仲間） ⑫×歩道への飛び出し→・歩道や車道に出るときは、必ず止まって左右を確認する。 （歩行者優先） ⑬○車道左側走行→・自転車通行可の歩道は、歩道（車道寄り）を走行してもよい。 ・小学生は、歩道を走行してもよい。 ⑭×歩行者にぶつかりそう→・歩道の車道寄りを徐行する。（歩行者優先） ・危険なときは、止まるか、自転車を降りて押していく。		
	2 本時のめあてを確認する。		
	自転車での事故にあわない、事故をおこさないためには、 どうしたらよいだろうか。		
展開 (3分)	3 歩道での自転車走行時、交差点横断時にどんな危険があるのかを考え、話し合う。	・危険の予測だけではなく、どうしたら危険を回避できるかについても意見を出させる。	リーフレット
	[歩道の自転車] ○ 駐車場から車がバックして、歩道に出てくる。スピードを出しているので止まらない。 車道の方によけると走行してくる車にぶつかるかもしれない。 →歩道を徐行していれば、すぐに止まれる。 ○ 歩行者にぶつかって、ケガをさせてしまう。自転車の人もよけようとして、車道に出ると停車中の車にぶつかってしまう。 →歩行者がたくさんいるときは、自転車を降りて押していく。 [交差点] ○ トラックの運転手が、自転車に気づいていないのでひかれてしまう。（死角、左折巻き込み） →信号が青でも、一度止まって車が曲がってこないかよく確かめてから渡る。運転手さんと目を合わせて、自分に気づいていることを確認してから渡る。 ○ お互いに相手が見えていないので、出会い頭にぶつかってしまう。 →交差点では、必ず一度止まって左右の安全を確認してから渡る。		

	4 小学生の自転車による事故の主な原因や加害者になってしまう事例もあることを理解する。 5 自転車に乗る前のルールを理解する。 - 自転車保険の加入について ※自転車保険加入の義務化（R4. 7から） - 自転車の点検整備について - ヘルメットの着用について ※すべての自転車利用者にヘルメット着用の努力義務（R5. 4から） 【ちばサイクルルール】 ★自転車に乗る前のルール ① 自転車保険に入ろう ② 点検整備をしよう ③ 反射器材を付けよう ④ ヘルメットをかぶろう ⑤ 飲酒運転はやめよう 6 自転車に乗るときのルールを理解する。 「歩道」や「車道」の走り方 - なぜ左側を走らなければいけないのか。 →右側走行だと、車と正面衝突をする可能性が大きくなるから。 →交差点から出てきた車から見えやすいから。 →カーブで対向車から見えやすいから。 →車両の仲間だから。など 「交差点」の走り方 - 自転車運転の禁止行為と必ず守るルール 【ちばサイクルルール】 ★自転車に乗るときのルール ① 車道の左側を走ろう ② 歩いている人を優先しよう ③ ながら運転はやめよう ④ 交差点では安全確認をしよう ⑤ 夕方からライトをつけよう 7 表紙のイラストの自転車の間違った乗り方について、どうすれば正しい乗り方になるか話し合う。転車運転の禁止行為と必ず守るルール	・安全不確認（安全の確認が確実に行われないこと）、一時不停止が主な原因となっていること、違反がなくても事故がたくさん起きていることを理解させる。 ・被害事故だけでなく、加害事故についてもふれ、加害事故が多く発生していることを説明し、自転車保険加入の大切さに気づかせる。 ・千葉県自転車条例改正により、令和4年7月から自転車保険の加入が義務化されること、自分が保険に入っているか家庭で確認することなどについて必ず説明する。 ・ヘルメット着用時の効果について、資料で確認し、自分の命を守るためにヘルメットを着用するということを理解させる。また、道路交通法の改正により、令和5年4月からすべての自転車利用者に対して乗車用ヘルメットの着用が努力義務とされていることを伝える。 ・自転車保険に加入しているかどうか確認し、わからない児童にはチェックシートを活用して、各家庭で確認してくるよう促す。 ・自転車点検について、チェックシートの「ブタはしゃべル」の各項目を確認する。 ・リーフレットを活用しながら、自転車に乗るときのルールについて理解させる。 ・なぜ左側を走らなければいけないのか考えさせ、ルールには理由があり、命を守るために大切であることを理解させる。 ・交差点を渡るときには、運転手さんが自分に気づいているか確かめること（アイコンタクト）の大切さに触れる。 ・学年によっては、内輪差や死角についても触れるとよい。 ・安全ルールの各項目については、自分の今までの乗り方を振り返らせる。 【評価】 ☆「ちばサイクルルール」（自転車に乗るとき・自転車に乗る前のルール）について理解することができたか。 ・リーフレット、ワークシート例を活用して、学習した「ちばサイクルルール」をもとに、自転車の正しい乗り方について、確認する。	リーフレット ワークシート例 リーフレット ワークシート例 リーフレット ワークシート例
まとめ（5分）	8 まとめをする。 - 自転車での交通事故にあわない、おこさないために気をつけることを書く。 - お互いの考えを発表し合い、これからの自転車の乗り方についてまとめる。 自転車での事故にあわない、事故をおこさないためには、「ちばサイクルルール」などのルールをしっかり守り、安全に行動しなければならない。	・リーフレット、ワークシート例を活用しながら、自転車の安全利用について振り返り、自分が気をつけることをワークシート例に書く。 【評価】 ☆事故にあわない、おこさないためにどうしたらよいか考えることができたか。	リーフレット ワークシート例